

子母口富士見台古墳(川崎市)

しばくち

正面のマウンドが子母口富士見台古墳/円墳と思われる/右手に説明板が立っている



左手を見たところ/道路で墳丘が削られている



橘樹郡衙跡から程近い高台に所在する子母口富士見台古墳/この地に残る伝承は「日本武尊東征の際、入水した弟橘媛(おとたちばなひめ)の櫛を取りて御陵を作って治め置いた」と云う近くの橘樹神社の社伝や古事記の記述と符合するらしい

子母口富士見台古墳

この古墳は、道路に面した麓部が大きく削られています。築造当初はかなり大きな円墳であつたと思われます。

現在の規模は、墳丘高三・七メートル、墳丘径十七・五メートルです。

この古墳には、古くから弟橘媛おとたちばなひめにちなむ話が伝えられています。橘樹神社たちばなの社伝では、日本武尊やマト東征の際、尊の身代りに海中に身を投じた弟橘媛の御衣・御冠が、この地に漂着したと伝えられています。また、『古事記』では「かれ七日ありて後に、其の後の御櫛海辺によりたりき。すなわち其の櫛を取りて御陵を作りて治め置きき」と伝えていいます。真偽のほどはともかく、この古墳にまつわる話として興味深いものがあります。

昭和六十二年 十月

川崎市教育委員会

ここから墳頂に登ってみよう



ここが墳頂/発掘調査は行われていないようで、築造時期は分からない



道路で墳丘が削られた面を見たところ



墳丘を登って来た方向を見下ろしたところ



近くに橘樹神社がある



ここが橘樹神社



古くから子母口村の鎮守であった橘樹神社は、日本武尊と弟橘媛の男女2軀の神体を祀っている

橘樹神社修復記念碑

祭神 日本武尊

弟橘媛

日本武尊が御東征のみぎり、当地方から房総半島方面へ渡航せんとした際、海神の怒りが海が大いに荒れたため、御妃の弟橘媛がその怒りを鎮めようと、尊の身代りとして海中に身を投じられた。媛のこの崇高な行為により荒れ狂っていた波浪も忽ち静かとなり、尊の御一行は無事に渡海すらざることとなった。後日、媛の装身具の一部がこの地に漂着し、村人は媛を憐んでそれを此の地に埋めて祀った。尊は御東征の帰途、再び此の地に立寄り媛を慰霊するため一社を建立したので、当社が創建と伝えられている。

当社は嘗て橘樹郡総社として崇敬され、江戸名所図絵にも掲載された由緒ある神社であり、現在の社殿は当時の氏子の熱意により現在から百三十七年前に改築されたものである。しかし、歳月の経過と共に各所が老朽化し、放置できない状態となったため、遠い時代より祖先が崇敬し維持してきた神社を修復し、次の世代に引継ぐことは現在の者の責務であるとし、平成と改元された記念事業として多数の有志の浄財によりこの工事を実施した。

平成二年十月吉日

橘樹神社修復委員会

参考ホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000000069.html>

<http://massneko.hatenablog.com/entry/2016/06/22/200000>

<https://sanpo-nikki.com/etc/shiboguchifujimidai/>

https://www.takatsu-ku.jp/request/area/shop_detail/65/

<http://pennihonshi.blog.fc2.com/blog-entry-441.html>

<https://ameblo.jp/furaaki/entry-12144315888.html>

